

教育再生会議：現行学制見直し、引き続き検討へ

政府の教育再生会議（野依良治座長）は3日、首相官邸で合同分科会を開き、小学校から大学までの「6・3・3・4制」の見直しについて議論した。委員の間では「現行の学制を弾力的に運用すべきだ」との意見が大勢を占め、年末の第3次報告に盛り込むことを目指し、引き続き検討することになった。

学制の区分を弾力化すれば、児童・生徒の学習の進展度合いに応じて年齢に関係なく進級する「飛び級」が可能になる。すでに一部で導入されている18歳未満での大学への「飛び入学」に対しては「大学への制約が厳しく、実効性が上がっていない」との意見が出された。小中一貫教育の促進についても検討する。

学制の見直しに伴い、義務教育で学業不振による留年を制度化することには委員から慎重意見が相次いだ。【佐藤丈一】

毎日新聞 2007年12月4日 東京朝刊

中華民國玖拾陸年陸月陸日

07.12.06

02091